怒りをこめて賃上げ・諸要求を

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 3033 8100 番
編集兼発行人　澁田紀生

敵と妥協する必要のないためには、味方と妥協しなければならない。妥協することのできない原則をもつ者のみが、大胆に必要な妥協をすることができる。

一九五六・五

山川均（三池労組本部蔵）

春闘・諸要求とわれわれの構え

4月4日 今後の方針を熱心に討議する全組長会議分科会

実質的賃下げに対して

六、〇〇〇円という賃上げでたたかうことにかわりはないが、米代はじめ諸物価とくに食料品の二〇%以上の大幅値上げは、まさに実質賃金の「切り下げ」以外のなにものでもない、という事実をわれわれは実感として再確認しようこのことを、正しく第二組合員や組夫諸君にも訴え、同感を求めることは緊急ではないだろうか。たとえ「そんなことはわかっている」といわれても、根気づよく説得する構えが必要である。

会社側のハラをえぐろう

周知のとおり、第二次石炭調査団は、石炭独占各社に対し、炭価値上げや政府からの利子補給（開発銀行や合理化事業団からの貸付残高七〇〇億円の金利六・五%のうち三%を政府が補給すること）という優遇策を講じたが、労仂者の賃金については七%を見込むということで答申した。したがって現在において賃上げ回答ができないとする石炭経協（大手八社）の態度は、全くづるいやり方で無責任きわまるものである。

そのねらいは、第一に今後の合理化を一層きびしく実施するための「不況・赤字宣伝」であり、第二にこの春斗で「標準作業量の引き上げ」を強行しようというのであり、第三に、採炭などの請負給比率（現在三池では請負分六〇%固定分四〇%）を、逆に固定分を六・七〇%に上げて総支払い賃金を減額し、転制支配強化で出炭だけは大増産しようというこんたんもあるのではないか。

石炭経協が出した資料によると昭和三九年度の大手一三社についての山元手取り平均実績は三、六三七円となっており、一方三池炭鉱の今年二月の賃金コストが六七四円（港務所を除く、直轄鉱員のトン当り賃金試算）であることを考えると、少くとも山元原価は二、〇〇〇円内外が当然予測され、トン当りの黒字は一、〇〇〇円以上ということになるはずだ。

三池炭鉱が、夏場に向うというのに三九年下期の実績日産一五、一三二トンを四〇年上期は一七、四五八トンに大増産するのも、このように黒字があるからだ。

三池労組の諸要求を

六、〇〇〇円の賃上げとともに三池労組は福利厚生諸要求を提示しているが、経営好転の実態を根気よく全員で第二組合員や組夫諸君に訴え、労仂者側の生活再建をかちとろう。

遺族のみなさんやCO中毒患者の仲間たちの諸要求についても同様であり「会社再建」のために労仂者だけが犠牲になるという事態を、断固としてハネのけることに全力をあげよう。その突破口が当面する賃上げストである。

斗う態勢を強化しよう

第二組合員や試傭員や組夫諸君の不満や抵抗もボツボツ見られるし、経営好転・黒字決算も事実として明らかになったということはいわゆる「客観的条件」があるということだ。

しかし、三池労組員がたたかう態勢を強化し充実しない限り、このような客観的条件を活用する効果的なたたかいは展開できない。

四月四日にもった全組長会議をさらに継続（二一・二二日予定）し、福利厚生についての「実態調査」をめぐる班単位の討議などが着々と前進するようみんなで粘り強く構えよう。

一せいに春斗へ突入

各単産統一ストのかまえ

春斗共斗委員会（六七六万人）の民間八単産は四月六日、大幅賃上げ、最賃制確立などを要求して全国いっせいにストライキにはいった。さらに春斗のヤマ場に向けて、公労協統一ストへ大きな高まりをみせている。

大地評傘下各単産も春斗に突入したが、地評としては春斗交流座談会第一回目を四月一〇日、第二回一二日に、スト参加組合より五～一〇名の代表者と各単産代表とで行ない、今後も継続して行なう予定です。

一六日、午後五時より市役所前で、春斗要求貫徹平和を守る大牟田大集会を行ない、一八日県評でベト、日韓、ナイキ、原潜、沖縄、春斗四・一八大集会が二万人の動員で福岡で行なわれます。その春斗のもり上がりの中で行なわれる今年のメーデーは春斗と結合して斗うメーデーとして行なわれます

各単産状況

（一四日現在）

▼三化・合成労組（賃金要求七、〇〇〇円）六日より無期限部分重点スト突入（三化二〇〇名、合成三〇名）このため減産は約三〇%程度で、今後強化の見込み。回答ゼロ。

▼東圧労組（賃金要求社員＝八、〇六九円、嘱託＝七、〇二六円）六日より無期限部分重点スト突入（五〇名）このため減産約五〇%程度で、今後強化の見込み。第一次回答三、五〇〇円（定期昇給含む）期手、社員四二、七三〇円（手取り）

▼三煉労組（賃金要求平均六、〇〇〇円）一六日より全面無期限スト、回答ゼロ。

▼全九電労（賃金要求平均九、二〇〇円）第一次回答二、六〇〇円

▼合同労組　賃上げ二、五〇〇円から三、〇〇〇円以上確保をめざして団交中。

【写真】四月六日スト突入日の三化労組の決起集会

現在の戦術は業務電話一切拒否。

山元・福利要求の点検活動

福利厚生を問題とする山元諸要求については、大幅賃上げ斗争とともに、物価高に苦しむ生活を防衛するために、四月六日第二回団交でするどく、組合員の切実な生活実態を追及して回答を迫ったが会社は第二組合との先行妥結を足がかりにして拒否しつづけているため、長期の斗いに備え、まず一人一人が具体的に地域で要求を確めつつ斗いを組み上げることにした。

そのために、要求事項に基づく大衆討議を早急に地域分会で実施するようにしていますが、**四月二五日**ごろまでに集約し、五月中旬に地域ぐるみの抵抗斗争を展開する方針であります。

主張　春斗無期限ストとわれわれの決意

状況について

四月一五、一六、一七日とつづいた炭労対石炭経協の中央集会交渉の経過は、一くちにいって「独善且つ不誠意」ということである。

石炭経協のいい分の大綱は—

(1)石炭業界として第二次石炭調査団にトン当り五〇〇円の値上げを要請したが、一般炭三〇〇円、原料炭二〇〇円に押えられ、しかも電力・鉄鋼など需要産業との話し合いが遅れている。

(2)したがって石炭業界として、いま自主的に賃上げを決められない実状であり、災害弔慰金についての炭労要求一〇〇万円も、石炭業界より好況な金属鉱業でさきごろ五〇万円で妥結したので、要求にそいがたい。

(3)他産業でも賃上げが未決定である上、石炭業界の実態もあり二〇日からの「無期限スト」は回避してもらいたい。

というものであるが、第二次石炭調査団の「炭価値上げ・利子補給」などの諸優遇措置の土台には少なくとも七%の賃上げが含まれているのであり、無期限ストの直前に「ゼロ回答」のまま、スト回避だけをくちにする不誠意な態度は許されない。

実態について

三井鉱山をとってみても、三九年度下期の実績一五、一三二トン（日産）を四〇年度上期には一七、四五八トンに大増産するという実態であり、貯炭もほとんど無いし、まさに業績好転の黒字決算のはこびに至っている。

一方、労仂者側は実質二〇%以上の物価値上げと合理化・労仂強化で苦しい生活にあえいでいる。

労仂者には、どこからも「補給」があるわけではないし、現状を正しくいうなら「賃金切り下げ」が物価値上げの結果として「強制」されているということである。

ストライキの意義

この春斗は、例年以上に「賃下げ」に対する反撃であり、合理化強行に対する抵抗としての大衆斗争であり、資本の独善と不誠意に対する怒りの結集である。

われわれは、第二組合員・組夫諸君に、三池労組のスト突入についての労仂者的同意と協力を粘りづよく訴えよう。